

マス類の県内需給状況調査

とりまとめ：名倉 盾

本調査は全国養鱒技術協議会提出資料として、県内の養鱒関係者に種苗生産状況を聞き取り調査し、取りまとめたものである。調査内容は、種卵生産量(普通魚・バイテク魚)・種苗生産量(普通魚・バイテク魚)・河川湖沼への放流用種苗数・埋没放流出荷卵数・普通魚の種卵種苗価格・バイテク魚の種卵種苗価格である。このうち、年間種卵生産量、年間種苗生産量、河川・湖沼放流用種苗出荷量、埋没放流用出荷卵数を以下に示した。

1 今回調査した養鱒経営体数

今回調査した経営体は32経営体であった。

2 県内の生産量

平成25年度の年間種卵生産量(表1)、年間普通種苗生産量(表2)、河川・湖沼放流用種苗出荷量(表3)、埋没放流用出荷卵数(表4)は次の表に示すとおりであった。

表1 年間種卵生産量

単位(万粒)

魚種名	普通卵				計	バイテク卵		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		全雌2倍体	全雌3倍体	計
ニジマス		435	330	580	1,345		15.5	15.5
ヤマメ			35	120.3	155.3			
イワナ				302	302			
アマゴ				124.3	124.3			
ヒメマス				20	20			
ブラウントラウト				5	5			
カワマス				5	5			
スチールヘッド				5	5			
サクラマス				4.5	4.5			
オショロコマ				4	4			
カットスロート				3.5	3.5			

表2 年間普通種苗生産量

単位(万尾)

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	986.6
ヤマメ	164
イワナ	133
アマゴ	98.1
ヒメマス	28
ブラウントラウト	5
カワマス	5
スチールヘッド	5
オショロコマ	4
カットスロート	3.2

表3 河川・湖沼放流用種苗出荷数

単位(万尾)

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	11.5
ヤマメ	27.3
イワナ	20.4
アマゴ	41.3
ヒメマス	38.1
ブラウントラウト	0.1

表4 埋没放流用出荷卵数 単位（万粒）

魚種名	年間放流数
ヤマメ	27.3
イワナ	20.4

3 魚種別生産経営体数

魚種別養殖経営体数と種苗生産経営体数は表5に示すとおりであった。

表5 魚種別養殖経営体数と種卵生産経営体数

魚種名	養殖経営体数	種卵生産経営体数（%）
ニジマス	19	8（42.1）
ヤマメ	18	8（44.4）
イワナ	16	9（56.3）
アマゴ	10	7（70.0）
ヒメマス	4	1（25.0）
ブラウントラウト	4	2（50.0）
サクラマス	2	2（100.0）
カワマス	1	1（100.0）
スチールヘッド	1	1（100.0）
オシヨロコマ	1	1（100.0）
カットスロート	1	1（100.0）

4 種卵生産量と種苗生産量の経年変化 （ニジマス）

平成25年の種卵生産量は前年比7万粒（0.5%）増の1,345万粒、種苗生産量は前年比28.5万尾（3.0%）増の986.6万尾であった。

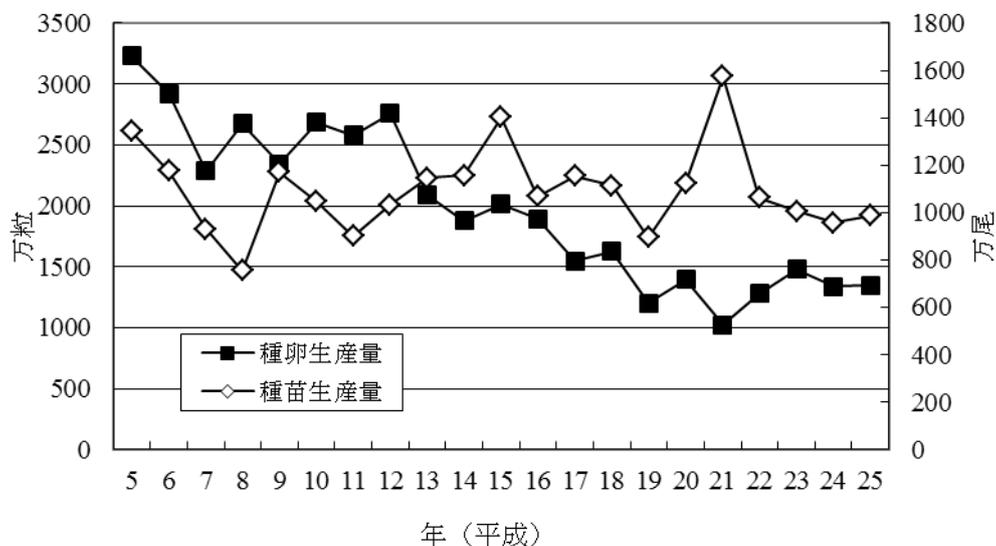


図1 ニジマスの種卵・種苗生産量の経年変化

(ヤマメ)

平成 25 年の種卵生産量は前年比 21.3 万粒（15.9%）増の 155.3 万粒，種苗生産量は前年比 26.8 万尾（19.5%）増の 164 万尾であった。

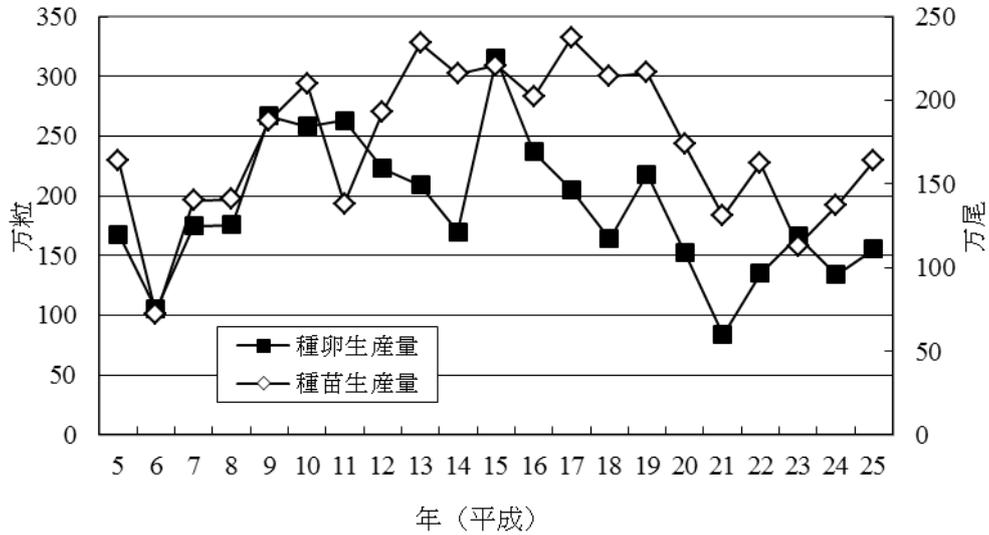


図2 ヤマメの種卵・種苗生産量の経年変化

(アマゴ)

平成 25 年の種卵生産量は前年比 5.7 万粒（4.4%）減の 124.3 万粒，種苗生産量は前年比 5.9 万尾（6.4%）増の 98.1 万尾であった。

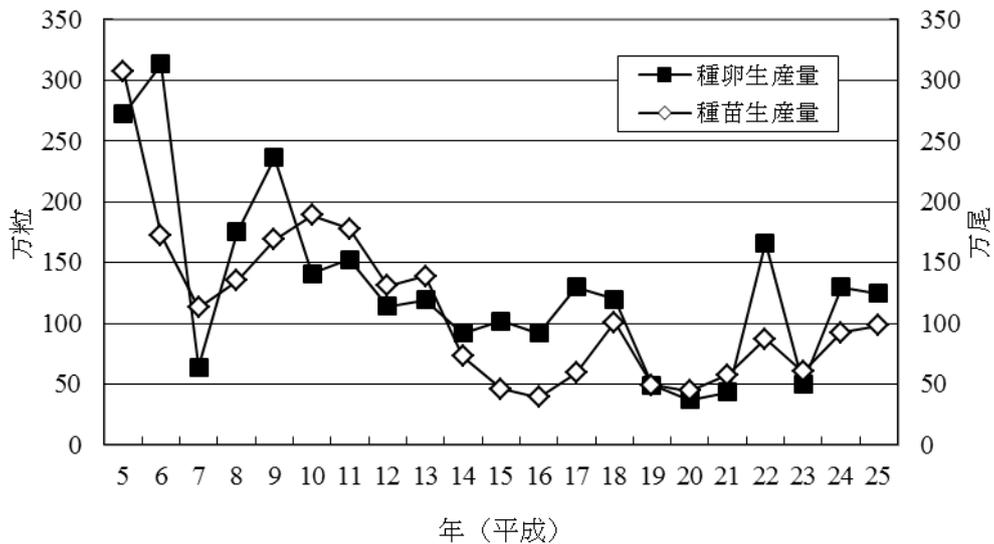


図3 アマゴの種卵・種苗生産量の経年変化

(イワナ)

平成 25 年の種卵生産量は前年比 23 万粒 (8.2%) 増の 302 万粒, 種苗生産量は前年比 2.3 万尾 (1.8%) 増の 133 万尾であった。

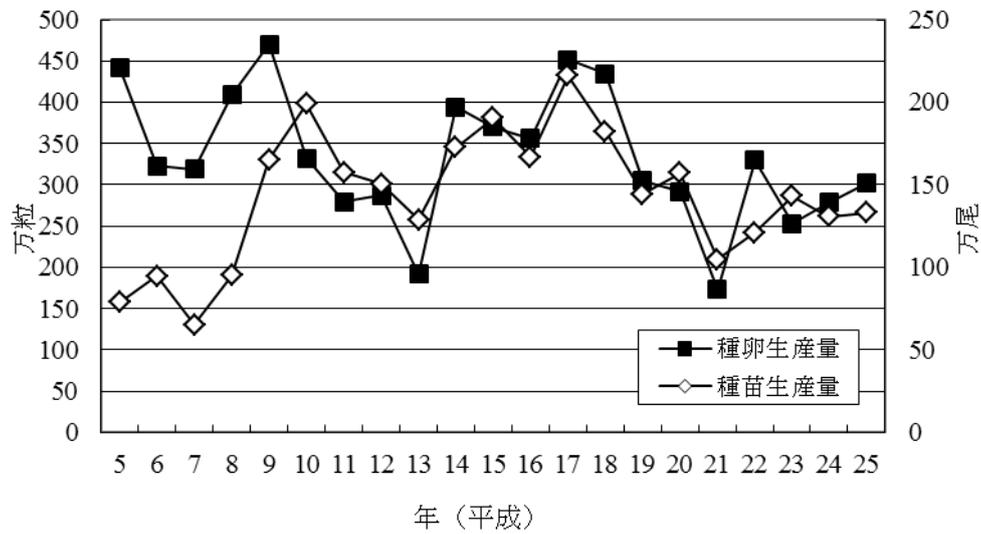


図4 イワナの種卵・種苗生産量の経年変化